

住民とまちとは まちと自治とは何か？



地方分権・権限委譲・道州制・市町村合併などといった言葉が各メディアで取り上げられる昨今、地方自治体を取り巻く環境はめまぐるしい変化を遂げている。

まちの価値が問われ、より一層、個性、魅力を出して行くことが、まちとしての生き残りの鍵になって来た。

まち全体を見据え、ひとりひとりがまちの将来像を描くことの必要性が求められる今、当別町長と元・前助役との対談を通じ、当別町のあるべき姿を探ってみる。

■当別町を内と外から見て 感じたこと、気付いたこと

泉亭町長 私が町長に就任してから助役として力を尽くしていただいたお二方は、仕事として、住民として当別に関わって来られました。

現在、北海道庁に戻られてからも、当別町とは深く関わりがあると思います。北海道という立場から当別町を見て気がついたことなどをお聞かせください。

谷本氏 当別はまちとしての価値がとても高いように感じます。

札幌市に隣接し、北海道医療大学があり多くの学生が居住していること、JRが通っていることや、スウェーデンヒルズという特色のある町並み、道民の森といった施設があり、最近マスコミでも多く取り上げられている移住促進事業などにも活発に取り組み、好印象を与えているまちだと思います。

このようなことは住んでいるときは当然だと思っており、特別なことと認識していませんでしたが、いざ当別を離れて振り返って見ると良い印象が強いですね。

道内の市町村には、資源が乏しく、人口減少、過疎化に歯止めをかけられずに悩みつづけているまちが沢山ありますが、当別は、もっと発展する可能性を沢山秘めていると思います。

佐々木氏 私もそのように考えています。当別は道央圏において道路交通の要衝であり、国道275号と337号が完全に整備されれば、この交差地区は人や物の流れの拠点となる可能性があると思います。

国道沿線では地元の農産物の直売所などで札幌市民などをターゲットに民間の力でいろいろなことが出来るのではないのでしょうか。

泉亭町長 谷本さんの在任中には、市町村合併の検討、協議の中で、行政サービスのあり方や事務事業の見直しなど、合併には至らなかったものの良い経験になりました。また、佐々木さんの在任中には住民と行政の協働による簡素で効果的、効率的な行政サービスの再構築を目的に行財政システム再構築プランを策定しました。

このプランに基づいて、住民参加の推進、事務事業の見直し、行政

Toshihiko Sentei



泉亭 俊彦

昭和12年6月17日生
当別町長
平成13年8月から、
現在2期目に至る。

組織の見直し、財政基盤の強化に取り組んでいます。重点施策のひとつであるコミュニティバスの試験運行が順調に進み、現在本格運行に向けた作業を行なっています。しかし、事業の休廃止、削減といったことを検討して行かなければならない厳しい状況が続いています。

佐々木氏 当別は地理的条件に恵まれ、札幌や江別と隣接しているので、教育、医療といった都市機能

や都市型施設を町として整備する必要性が低い。このような部分では町の負担は少ないですから、その分を札幌などと差別化する施策に回すことができると思います。

■国と地方、 住民と行政の役割分担

谷本氏 今は、戦後のすぐに作られたいろいろなシステムの土台が崩れてきている時代ですが、未だに、困った時には国や道で資金を出して何とかしてくれるといった意識だけが残っているように感じます。

行政がどこまでやるべきか、住民が何をすべきかといった区分を明確に定めたものはありませんが、今後は住民と行政との役割分担のあり方が大切になって来ると

思います。

泉亭町長 私も同感です。現在、国、地方が深刻な財政危機に陥っています。これを乗り切るためには国と地方の役割分担を明確にして、特に市町村は行財政基盤の確立、足腰の強い組織体制づくりが求められます。その意味では、市町村合併は行財政改革の有効な手段の一つであると考えますが、現実には合併した場合、その自治体が基礎自治体としてやっていけるか、そこの住民が合併して本当に良かったと満足できるのか、疑問と感ずる部分はたくさんあります。

佐々木氏 合併したとしてもすぐに目に見える効果は現れないと思います。自治体の財政としては5年後、10年後にならないと効果は出てきませんが、全部が全部上手く行くことになるとは考えていません。

泉亭町長 現在、当別町は行財政システム再構築プランに基づいて自立できる町を目指していますが、今、谷本さんが携わっている道州制はどのように進んでいくのでしょうか。

谷本氏 道州制は、地方分権改革の究極の姿と考えています。仕事と財源をセットで市町村、道州、国とで分け、それぞれが互いの関与を無くし、完全に責任をもって行なうという考え方であり、住民に身近な事務を担う市町村の役割は大きくなる。大改革であり、まだまだ多くの検討が必要であるが、地方分権を進めようとする大きな流れは変わらないと思います。

泉亭町長 これからの当別に求められること、地方自治体の全体像はどのようになると思いますか。

佐々木氏 自治体のIT化、オンライン化は更に加速して行くと思います。取り組み方次第で、各自治体間の事業や経費の効率化では差が生じてくると思います。他の市町

Tamotsu Sasaki



佐々木 保氏

昭和26年10月2日生
北海道企画振興部
地域振興・計画局市町村課参事
平成16年4月～18年3月
当別町助役

村で行なっていることの情報収集が大切になると思います。

また、自治体としての特徴を出す動きも活発化すると思います。当別は札幌に近いですが、札幌と同じことをしてはいけなと思いますね。当別が札幌と同じことをするのなら札幌に住めば良いと考えてしまう。当別の潜在能力を活かした地域づくりをする必要があると思います。

泉亭町長 当別では、住民の子育てサークルや町内会で行なっている防犯パトロールなどの住民独自の活動も活発です。移住促進事業でも当別の町民に実際に触れ合われて移住を決めた人もいます。

佐々木氏 そういったことは札幌市では見られないですね。札幌に近いからこそ差別化を図ったことが受け入れられると思います。例えば老人

Tatsumi Tanimoto



谷本 辰美氏

昭和27年3月26日生
北海道企画振興部
地域主権局次長
平成13年9月～16年3月
当別町助役

のコミュニティー作りを応援するような施策でも良い、町民が相互に扶助、互助ができる”優しいまち当別”をつくる。もし札幌の100人に1人がこのことに興味を持つことで1万8千人もの人々が当別に目を向けることになりますからね。

良い意味で差別化することが、元気のある町になります。

話は変わりますが、都市部の人々とそれ以外の人々の行政サービスに対する意識や考え方には違いがありますね。道内を見ていると、町村と比べると都市部の方が、住民の負担が多い傾向にあります。都会ではサービスを求める場合はお金を負担するという考え方が浸透してきていると思いますね。

谷本氏 当別に住んで驚いたことは、各町内の住民が自由に使えるような立派な会館の維持費を町が負担していることです。

これは他の自治体でもあまり例が見られないことだと思いますね。

泉亭町長 現在行なっている、当別独自のサービスの見直しを行なわなければならないと思いますが、その際には何が必要だと思いますか。

谷本氏 すぐに全てを変えてしまおうとしても上手くは行きませんが、意識改革の積み重ねが大切だと思います。

現在、何の負担が高く、何の負担が少ないのかをきちんと情報公開し、住民との納得の行く議論が必要になります。その際には他の自治体の良いサービスばかりを手本とするのではなく、当別の実情を見ること、知らせることが重要ですね。

佐々木氏 子育てを住民全体の協力で行なうというファミリーサポートシステムはまさに補完性の考え方に基づいた事業だし、アメリカで住民が自分たちの身を守る為に保安官を雇っていたことは、安全を自ら金で買うという考え方だと思う。



対談会場 北海道町村会会議室

役場職員の意識改革のみならず、住民の意識を変えることも重要になってきていると思います。

そして、事業の廃止の際には、ただやめるのではなく、将来に何をするための廃止なのかを整理して、長期的な視点を持たないと、前向きな行政は行うことが出来ないと思います。

■住民の力で進める 夢のあるまちづくり

泉亭町長 住民と行政との連携という言葉が多用されていますが、これからは本当に住民の力がなくてはやっていけないことが多いと思います。

谷本氏 住民と行政とによる協働のまちづくりには様々な手法や方策が考えられると思いますが、まずは、住民にまちの実態について、詳らかに情報を開示し、住民が理解し、納得し、協力をするという過程が大切で、住民と行政との合意形成がなされないとまちづくりは進みません。

佐々木氏 道外の事例ですが、地元産品の直売所で、高齢者が作った手作りの大福餅が口コミで人気を呼び、生産、販売に多くの高齢者が関わるようになり、高齢者の病気が激減したという話があります。お年よりは多くの知恵と経験を持っているので、行政がうまくコーディネートしていけばまちづくりの良いパートナーになると

思いますね。

泉亭町長 今、当別ではまちの賑わいを創出しようと、まちの中心で眠っている駅前れんが倉庫を有効活用させるために、スウェーデンのパン釜づくりなどの改装を行なっています。

また来年は当別をPRして人を呼び込む為に、スウェーデンレクサンド市との姉妹都市提携20周年記念の節目の年に開催する夏至祭を盛り上げようと、6月に向けて各方面で準備をしています。町内外の人々に当別町を広くアピールしていきたいと考えています。

谷本氏 当別に住んで知ったことの一つに、イベントを企画したり、参加する積極的な人が大勢いると感じました。当別町は住民パワーでこれから益々発展する可能性があると感じています。

佐々木氏 私も同様な印象があります。そのような人たちをスピーカーとして町の情報を発信できるとまちづくりに弾みがつきますね。住民の口コミで伝わる情報が信頼できる情報になり、住民が一体となった、夢の抱けるまちづくりができると思います。

泉亭町長 本日はありがとうございました。これからも北海道という立場から当別の応援をお願いします。